

令和2年上半期分 名古屋港貿易概況（速報）の要旨

令和2年上半期分について、輸出額は「自動車」、「自動車の部分品」などが減少したことから、対前年同期比21.8%の減少となった。また、輸入額は「有機化合物」などが増加したものの、「原粗油」、「液化天然ガス」、「絶縁電線及び絶縁ケーブル」などが減少したことから、同14.3%の減少となった。

その結果、差引額は2兆6,062億円（同27.3%の減少）となった。

注) 本資料中の「伸率」及び「増加・減少」は、前年同期比による
また、★印は全ての期を通じて過去最高を示す（1979年上半期以降のデータを基礎として比較）

○総額

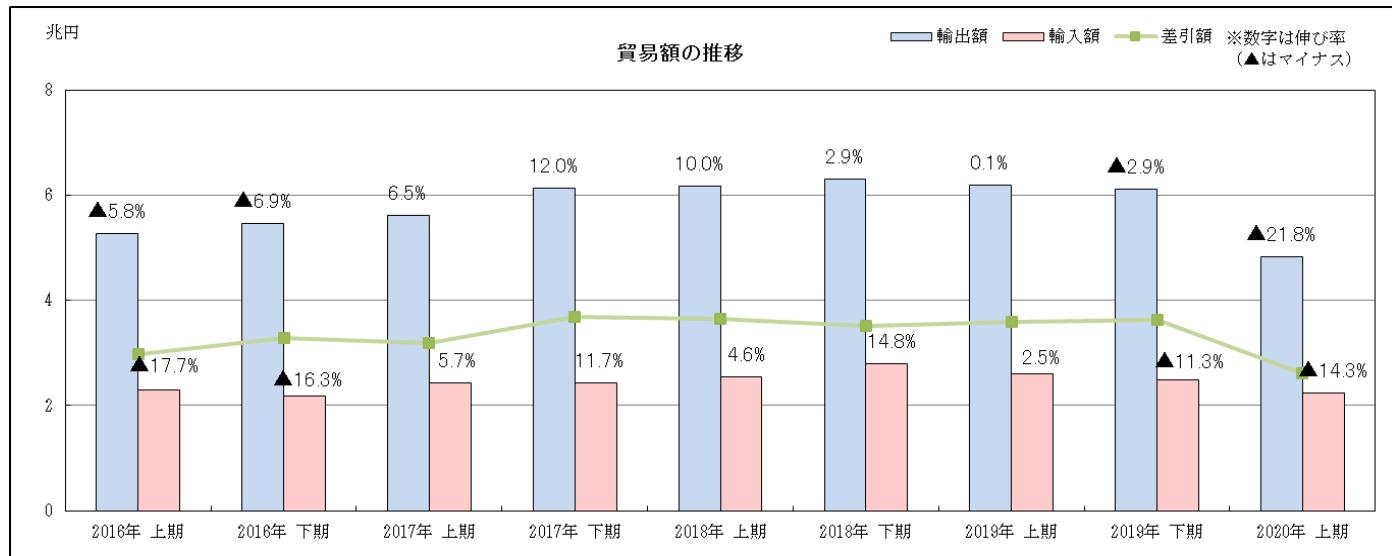
区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額	伸率
名古屋港	4兆8,365億円	▲21.8%	2兆2,303億円	▲14.3%	2兆6,062億円	▲27.3%
	2期連続の減少		2期連続の減少		2期ぶりの減少	
管内（名港シェア）	7兆3,663億円 (65.7%)		4兆1,857億円 (53.3%)		3兆1,806億円 (81.9%)	
全国（名港シェア）	32兆3,642億円 (14.9%)		34兆6,038億円 (6.4%)		▲2兆2,395億円 (一)	

注) 名古屋港における輸出額は、2011年下期以降（18期連続） 全国港別第1位（空港を含む）

注) 名古屋港における差引額は、1998年上期以降（45期連続） 全国港別第1位（空港を含む）

○主な増減品目

	概況品名	金額	伸率	寄与度	増減
輸出 減少	自動車	12,453億円	▲22.0%	▲5.7	6期ぶりの減少
	自動車の部分品	7,365億円	▲28.7%	▲4.8	4期連続の減少
輸入 減少	有機化合物	★ 812億円	+65.1%	+1.2	3期ぶりの増加
	原粗油	987億円	▲37.0%	▲2.2	2期連続の減少
(3)	液化天然ガス	1,734億円	▲15.5%	▲1.2	2期連続の減少
	絶縁電線及び絶縁ケーブル	1,004億円	▲23.7%	▲1.2	2期連続の減少



★名古屋港について・・・

本資料における名古屋港の数値は、輸出入された貨物の貯置場所を管轄する次の税関官署を基準に集計しています。

名古屋港の税関官署とは、名古屋税関本関（含岐阜政令派出所）、中部外郵出張所、南部出張所、諏訪出張所（含長野政令派出所）、西部出張所をいいます。